

II 実践協力校の学校防災教育の取組

鳥取市立賀露小学校

1 学校の概要

本校は、鳥取市北部日本海に面した地域にある児童数340名の中規模校である。鳥取沖東部断層地震で最大津波…約6m 第一波到達時間…約5分 最大波到達時間…約14分と想定される位置にあり、校庭浸水被害予想…0.5m～1.5mも考えられる「地震・津波などの災害が予想される地域」である。



2 取組について

(1) 学校の体制整備（保護者や地域等と連携した体制整備）

津波に対する高台避難における児童引き渡し…地域との合同訓練に参加し、登校班名簿によるチェック後、地域代表への引き渡しを行った。

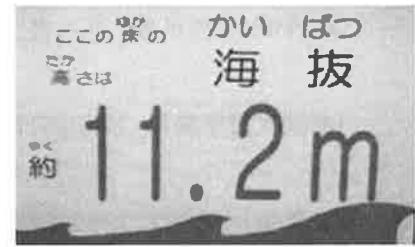
保護者用リーフレット「助かる人、助ける人になるために」

（資料①）を全家庭に配布し、命を守るために主体的な行動について、家族で話し合いを深めるようにした。避難場所・集合場所をリーフレットに記入できるよう工夫した。また、いたん担任に提出させ、避難場所・集合場所を学校も把握するようにした。

児童の防災意識を高めさせるために、図書館に「防災コーナー」（写真①）を設置したり、各階の廊下・多目的ホールに「海拔表示」（写真②）を掲示したりした。



写真① 防災コーナー



写真② 廊下 海拔表示

(2) 防災に関する学習

地震・津波に関する学習をより充実させるために、防災教育全体計画・年間指導計画の作成、見直しを行った。鳥取県ウェブページ「体育保健課 鳥取県防災教育の手引き（学習メニュー、参考リンク、資料）」や「防災48」などを参考にした。

The diagram illustrates the 'Handbook for Disaster Prevention' (災害対策ハンドブック) which includes sections on:

- 家族みんなで** (Family everyone):
 - 【備蓄】 (Stockpile): Information on food storage.
 - 【備える】 (Prepare): Includes sections on '地震に備えるための留意点' (Points to note for preparing against earthquakes), '津波に備えるための留意点' (Points to note for preparing against tsunamis), and '火災に備えるための留意点' (Points to note for preparing against fires).
 - 【生き残る】 (Survive): Includes sections on '自らの命を守るために必要な行動' (Actions needed to protect one's own life), '命を守るために必要な行動' (Actions needed to protect others' lives), and '命を守るために必要な行動' (Actions needed to protect one's own life).
- 助かる人・助ける人になるために** (To become a helper or a person who helps): Includes sections on '命を守るために必要な行動' (Actions needed to protect one's own life) and '命を守るために必要な行動' (Actions needed to protect others' lives).
- 二段階への対応** (Response to two stages): Includes sections on '命を守るために必要な行動' (Actions needed to protect one's own life) and '命を守るために必要な行動' (Actions needed to protect others' lives).
- ともに生き抜く** (Surviving together): Includes sections on '命を守るために必要な行動' (Actions needed to protect one's own life) and '命を守るために必要な行動' (Actions needed to protect others' lives).
- 命を守るために必要な行動** (Actions needed to protect one's own life): A summary section.
- 命を守るために必要な行動** (Actions needed to protect others' lives): A summary section.
- 命を守るために必要な行動** (Actions needed to protect one's own life): A summary section.
- 命を守るために必要な行動** (Actions needed to protect others' lives): A summary section.

資料① 保護者用リーフレット「助かる人、助ける人になるために」

防災教育の目標として、以下の3点を重点に学習に取組んできた。

- I …自ら危険を予測し、自らの命を守りぬくために主体的に行動できるようにする。
＜判断力・行動力＞
- II …他の人々や集団、地域の安全に進んで役立つことができるようする。
＜貢献する態度＞
- III …災害発生メカニズムや地域の防災体制について理解し、活用できるようする。
＜知識の取得と活用＞

年間指導計画をもとにビデオや写真などを活用して、児童の興味関心を引き出し、発達段階に応じた授業を展開するよう努めた。

①湖東中校区防災教育研修会（平成25年）

全学級が、防災教育の授業公開を行った。学習後のアンケートでは、「防災教育の学習を初めて見て大変参考になった。」「しっかりした防災教育の年間指導計画に沿って、学習が展開されていた。」「地域の環境をふまえながら、災害の危険性、避難のやり方を指導していると感じた。」「ワークシート、プレゼン、動画、貼り物など、どの学級も児童が興味を持てる学習展開がされており、楽しみながら学習している様子がとても印象的だった。今日のような学習を積み重ねていくことで、児童の心に残り、意識して行動できる子に育っていくと思った。」など、肯定的な意見が多くあった。各学年・学級の学習の感想は、次のようにあった。

[特別支援学級] 写真や映像、○×クイズなどで分かりやすく理解していく内容だった。

[6年生] 実験によって液状化現象を分かりやすく教えていて、児童も意欲的に取組んでいた。ペットボトルを使って児童に体験させる活動は、分かりやすく関心を引き出すことができた。（写真③）

[5年生] 究極の選択を通して、災害の場面に自分を置いて思考を深め、備えることの大切さを感じさせるという手法がとても参考になった。

[4年生] 児童が自分でしっかりと考える活動があり、参考になった。ビデオも真剣に考えられるいい資料だった。



写真③ 6年生 理科「大地のつくりと変化」

[3年生] 地震による家具の倒壊ビデオを流していたが、児童から悲鳴が上がるほどリアルで効果的であった。自分自身の逃げ方をグループの話し合い形式で意見が出やすい学習だった。(写真④)

[2年生] 「2年〇組はつ明じむしょ」で、防災教育と関連付けて、防災に関する発明品に限定して考えて紹介する学習が興味深かった。

[1年生] 防災袋を扱った内容は、1年生には難しいと思ったが、防災袋の中身の必要性を一生懸命考えており、よく考える児童に育っていてすばらしいと思った。



写真④ 3年生 学級活動
「寝ている部屋はだいじょうぶ?」



資料② 4年生 防災新聞の作成

②年間指導計画に新たに加えた学習内容

地震・津波に関する学習をより充実させるために、避難に関しては、「賀露マップ（避難経路など）」「市や町のようす（市防災マップ）」「地震津波のメカニズム」「気象庁Ｊアラート・地震警報の仕組み」等。行動面に関しては、「家庭・地域で地震や津波にあつたら（経路・避難場所）」「災害時、自分たちにできること」「災害時、命を守るにはどう行動するか」「災害時避難（下級生といっしょに）」「危険予測と安全な行動」等。情報を発信するものとして、「防災〇×クイズを作ろう」「取材したことをもとに防災新聞を作ろう」（資料②）等を新たに年間指導計画に加えた。

(3) 学校防災アドバイザー等の活用

○1、2年生「防災ダック」の学習

横山ひとみ防災教育アドバイザーに学習を行っていただいた。「防災訓練の大切さと「防災ダック」ゲームを知り、ゲームを通して楽しみながら自分の体を守る動作をする。」を目標として行われた学習は、児童が、楽しみながら命を守る体勢を学習することができた。(写真⑤)



写真⑤ 「防災ダック」学習の様子

○授業研究会

<平成25年度>

6年生 理科「大地のつくりと変化」

横山ひとみ防災教育アドバイザーをゲストティーチャーに招いて学習を行った。災害発生のメカニズムを理解した後、学校管理下外で地震や津波に遭遇したら、どのような行動をとればよいのかを考え発表した。講師の先生から、津波やがけ崩れなどの二次災害を想定したよりよい避難行動について説明を聞くことによって、自分たちの行動が良かったのか客観的に振り返ることができた。

(写真⑥)



写真⑥ 6年生 理科

<平成26年度>

6年生 学級活動「わたしにできること～避難時の共同生活～」

平成25年度に引き続き、横山ひとみ防災教育アドバイザーをゲストティーチャーに招いて学習を行った。

災害避難時の共同生活において、助け合ったり、地域社会の一員として自分の役割を自覚し、協力して働くことしたりする意識を高め、実際に自分にできることを考えた。(写真⑦)



写真⑦ 6年生 学級活動

【児童の学習後の感想】

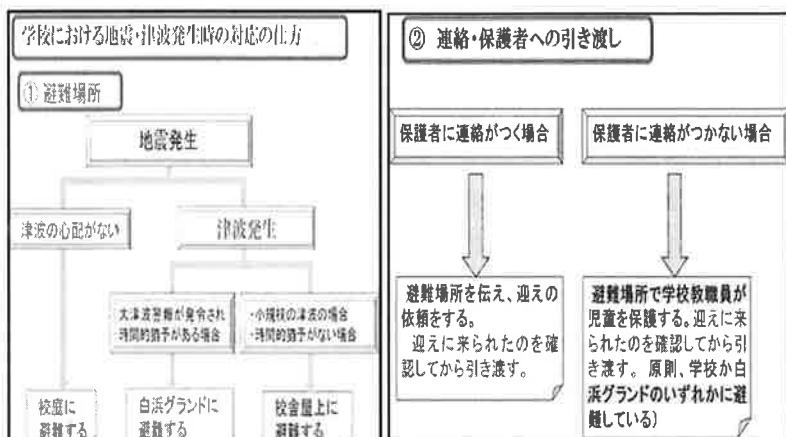
- ・水道が使えない時、トイレや手洗いなどの生活用水を自分たちでくんでくる。
- ・励ましたり声を掛け合ったりしよう。・自分のことは自分でできるようにしよう。
- ・お年寄りや乳幼児、病気の人→寂しくないように話し相手・遊び相手になる。
- ・普段から困っている人はいないか周りに気を配ることのできる人になりたい。

(4) 実践的な避難訓練の工夫

防災教育において避難訓練は大変重要である。訓練の際には、さまざまな状況を想定して行なうことが大切である。想定外の状況も視野に入れて、繰り返し行なうことが、災害時に生かされることになる。さらに、なぜ訓練をするのか、なぜ逃げる必要があるのか等、訓練の意味を児童・教職員が知っておくことも必要である。本校のこれまでの避難訓練は、火事、不審者、地域防災訓練（地震・津波）、火事（休憩時）であったが、避難訓練充実を図るために、訓練の回数・やり方を見直した。平成25・26年度は、①避難訓練（火事）②避難訓練（不審者）③避難訓練（地震・津波…屋上避難）④地域防災訓練（地震・津波）⑤緊急地震速報を活用した避難訓練（学習時・休憩時）を実施した。

特に、地震・津波避難に関しては、右図（資料③）のように、地震・津波発生状況に応じた対応マニュアルを考え、教職員・児童がしっかりと理解したうえで訓練を行った。

また、連絡・保護者への引き渡しについても対応マニュアルとともに、保護者説明会を設けて理解と協力をお願いした。



資料③ 地震・津波発生状況に応じた対応マニュアル

○避難訓練（地震・津波…屋上避難）

「鳥取県沖で地震（M7.2 鳥取市の震度6強）が発生した。このため各所で家屋が倒壊し、大津波警報が発令された。5mの津波が10分以内に海岸部に到達すると予想される。高台である白浜グランドへの避難は時間的に不可能であり、校舎3階以上への避難を行う。」という想定で実施した。校舎3階以上への避難を想定したのは、3階フロアーが海拔11mであり、そこまで速やかに避難した後、順次より高い屋上へ避難することとした。（写真⑧）横山ひとみ防災教育アドバイザーにも参加していただき、避難の仕方に関する指導助言をいただき、次の訓練に生かすことができた。地震発生時には、まず頭を守る行動をとることが大切であり、「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」安全な場所へ避難することが自分の命を



写真⑧ 屋上避難後の様子

守ることにつながるということである。

○地域防災訓練（地震・津波）

地域との合同防災訓練に参加した。「鳥取県沖東部で地震（M7.3 鳥取市の震度6強）が発生し、津波の恐れがあり、到達時間までに高台避難が可能である。」という想定で実施した。まず、前庭に集合整列、人数確認、事故者の有無を確認し、順次高台への避難を行った。（写真⑨）避難路の状況や児童の避難状況を把握し最善の避難方法を選択するために、トランシーバーを活用（4台）して連絡し合いながら避難を行った。3年生は、消防車放水訓練、給水訓練に参加した。（写真⑩）



写真⑨ 高台への避難の様子

訓練後には、登下校中や自宅等に子どもだけでいる時に大きな地震がおこった場合どう行動すればよいのか等、学校管理下外の地震・津波に対しても指導を行った。津波から避難する場所は、賀露地区は白浜グランド、晚稻、南隈はジャスコ屋上等、具体的な場所についても理解させた。



写真⑩ 3年生 消防車放水訓練参加

○緊急地震速報活用した避難訓練（休憩時）

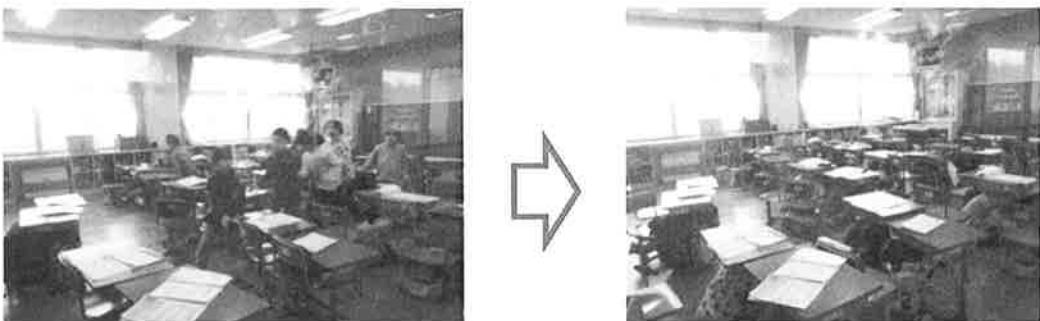


緊急地震速報を聞いた時、まず身の安全を確保した後、津波情報により、校舎3階以上（最終集合場所は、屋上）への避難誘導訓練を行った。緊急地震速報の意義とその時の行動について理解するとともに、学校以外で緊急地震速報を聞いた時、どのような行動をとればよいのかを、具体的な状況で考えさせるなど、学校管理下外の地震・津波に対しても指導を行った。

○緊急地震速報を活用した避難訓練（学習時）

平成26年度は、平成25年度実施した避難訓練に加えて、校長・教頭・教務のみが実施期日を知っており、他の教職員・児童には事前に知らせないで、緊急地震速報を活用した避難訓練を行った。「試験放送です。」のアナウンスは省き、本番同様のアナウンスを流して実施した。教職員も児童も、本物の緊急地震速報だと感じて、これまでの訓練のときとは違った緊張感を持って訓練ができた。たいへん有意義な訓練になった。（写真⑪）。体育館では、教職員が避難位置を迷ったり、児童が水銀灯の下でしゃがみこんだりした。教室では、職員の避難指示が適切でなく、机の下へ避難できない学級もあった。さらに、特別教室では、放送スイッチが切ってあり、アナ

ウンスが聞き取りにくい教室もあったなど、反省点を教職員間でしっかりと話し合うことができた。



写真⑪ 緊急地震速報活用避難訓練（休憩時間に緊急地震速報を校内に流しました。）

3 成果と課題

＜成果＞

- さまざまな避難訓練を経験することで、児童が、自分の命を守るためにどのように行動すればよいかを考えることができるようになってきた。また、防災教育アドバイザーをはじめとする専門家に指導していただくことで、より専門的な知識や具体的な行動の仕方を知ることができ、防災に関する知識や学習指導力も高めることができた。
- 年間指導計画を見直すことで本校の実態に応じた6年間を見通した防災教育の系統性をより明確にすることができた。また、年間指導計画をもとに、ビデオや写真などを活用して、児童の興味関心を引き出し、発達段階に応じて児童の興味を高めるような授業を展開することができた。
- 地域との合同訓練に参加することにより、地域の一員として、災害時にどう行動すればよいのか考えることができた。状況に応じて異なった避難訓練を行うことで、あらゆる状況下で命を守る行動を自ら考えるきっかけづくりにつながった。
- 災害時における行動を保護者と話し合うことにより、児童・保護者とも防災意識をより高めることができた。

＜課題＞

- 指導内容のさらなる見直しを行い、学校の実態に合わせた防災教育の構築が必要である。
- 想定外の事態に直面した時やさまざまな状況下での避難の仕方などを具体的に児童に考えさせる場面を増やしていくなければならない。
- 学校管理下外に地震や津波に遭遇した場合、どのような行動をとれば命を落とす危険を小さくすることができるのかを具体的に考える学習も必要である。
- 保護者との連携や避難後の児童の受け渡しなどの具体的な対策方法等を考える必要がある。
- ウェブページ、学校・学年便りを活用した保護者への情報発信を充実させ、防災教育へ理解と協力を啓発することも大切である。
- 学習に使った資料や指導案は、中学校区で共有したり、次年度でも使えるように、学校の財産として残したりすることも必要である。